

Concert In New Normal ～新しい生活様式のための～

報告書

1. 背景と目的	P2
2. 実施内容	P3～P7
3. 演奏者・来場者の意見	P8～P9
4. まとめ	P10

1. 背景と目的

新型コロナウイルスの感染防止対策のため、社会の様々な活動は「新しい生活様式」での持続可能な方法を求められている。

文化芸術活動もまた同様となる。人が集積するスタジアム、劇場、ライブ会場などは収容人数の50%以下または1,000人以下（令和2年7月10日以降は5,000人）の制約が求められる中、観客側だけでなく演じる側の感染防止対策も問われている。収益性を求める活動から市民の生活文化活動の発表など、文化芸術活動の形式は多様化しているが、どの形式でも感染防止対策は必須であり、プロ・アマ問わず安全な活動のラインを模索している。ただし、すぐに正解が見いだせない状況下では実験的にコンサートを行うのは団体の安定した基盤が必要であり、小編成の団体・個人では経済・運営面から取り組みにくい。

このような状況の中、当財団は文化芸術活動の手法を、演奏者・来場者とともに考える場を作るため、今回の実証実験を行った。三者（主催者・演奏者・来場者）がそれぞれの立場で感染防止対策を実施し、それぞれが課題を見つけ対応し今後の手法を模索していくことを目的とする。この結果を今後の文化芸術活動の参考となる資料として公表する。

（開催に向けて参考としたガイドラインは下記の通り）

■公益社団法人全国公立文化施設協会

「劇場、音楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和2年5月25日）

https://www.zenkoubun.jp/covid_19/index.html

■クラシック音楽公演運営推進協議会

「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大防止予防ガイドライン」（令和2年6月11日）

<https://www.classic.or.jp/2020/06/blog-post.html>

加盟団体：一般社団法人日本クラシック音楽事業協会（加盟団体93団体）、公益社団法人日本オーケストラ連盟（加盟団体37団体）、公益社団法人日本演奏連盟（全国の音楽実演家等3,155人加盟）ほか

■緊急事態舞台芸術ネットワーク

「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」（令和2年6月30日）

<http://www.jpasn.net/cn1/2020-07-01.html>

2020年2月26日に政府による突然の自粛要請を受けて以来、公演の中止延期が相次いだ舞台芸術界の損害の実態を把握するため、損害額調査を実施。その結果を受けて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による舞台芸術業界が危機的状況であるとの認識のもと、緊急的に形成されたネットワーク。（HPより）

2. 実施内容

コンサートの出演者は、浜松市在住または浜松市出身（県内在住）の演奏家への活動の場の提供として一般公募にて選定した。応募にあたっては演奏の内容とともに感染防止対策についての提案・アイデアも記入することとした。募集期間は令和2年5月27日から6月3日まで。（応募要項は別添資料）

なお、応募者ごとに様々な視点からの提案内容となり興味深かったため、当初の3公演の募集から6公演へと拡大した。さらには客席数増加、休憩も設定するなど段階的に実証できるコンサートとした。

■応募総数 14 件

■採用団体 6 団体

■公演スケジュール 開場 13:30 開演 14:00 （公演時間は約 1 時間） 入場料 500 円（税込み）

公演日	出演団体	内容
6 月 27 日（土）	DUO2020 小野和将（Trb）、村上恵三子（Pf） 松田英子（ダンサー）	コンテンポラリーダンスを交えたトロンボーンとピアノのアンサンブル
6 月 28 日（日）	なほこまり with 小関礼香、上野史織 小池真梨（エアロフォン） 川村菜穂子（鍵盤ハーモニカ、Pf） 小関礼香（Fl）、上野史織（Pf）	電子楽器「エアロフォン」と各楽器とのアンサンブル 楽器はすべて PA 機器により集音・調整しスピーカから出力
7 月 4 日（土）	NikoYama Ensemble 仁科恵美子（Cl）、山本直人（Sax） 小久保まい（Euph）、山本和邦（Tub）	木管、金管のソロ演奏とアンサンブル
7 月 5 日（日）	ブリエ・リコーダーアンサンブル 長瀬正典、柿本春香、桐畑奈央、徳永隆二	大小さまざまなリコーダーによるアンサンブル
7 月 12 日（日）	KHS musica 木下綾子（声楽）、五位野百合子（声楽） 川村有香（声楽）、小池紘子（Pf）	前半はピアノリサイタル、後半はアリアや唱歌などの声楽によるコンサート
7 月 18 日（土）	フィリア 沖教仁（Pf）、沖佐知江（Vc）、岡田恵里（Vn）	ピアノ、ヴァイオリン、チェロによるアンサンブル

※チケットはすべて完売。当日券の販売は無し。

7/5、7/12、7/18 は休憩時間 15 分間を設けた。

7/12、7/18 は座席数を 60 席に、それ以外は 40 席にて実施。

■主催者サイドの感染防止対策

①客席数は40席（椅子と椅子の間は150cm）。

ただし、7月12日と18日は60席（椅子と椅子の間は約100cm）

前後も同様の距離を空け、ずらして配置した。また、壁際及び客席後ろには十分な通路を確保した。なお、本番中は客席扉を半開放した。半開放した扉からロビーの明かりが漏れるのを防ぐため、可動式の展示パネルにて光を遮った。



座席数 40 席



座席数 60 席

②室内は外気を取り入れた空調を、設営開始の入室時から撤去終了後の退室時まで稼働させた。

③公演時間は概ね1時間とした。なお休憩は7月5日、12日、18日の3公演のみ15分間設けた。

休憩時の途中入退場の時には、退場時にご自身で札を取り、再入場時にご自身で箱に入れる方式で接触を減らした。消毒しやすい硬質なプラスチックの札（荷物預かりなどで使用するもの）を利用した。また、トイレ混雑時にも距離を取って並んでいただく案内及び目安を設置した。（150cm 間隔）



途中退場・入場時の札と回収箱



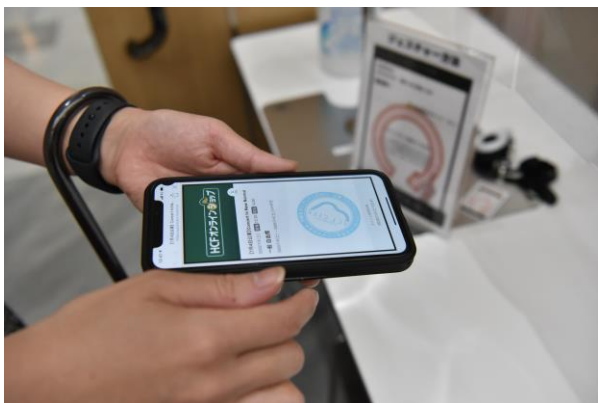
トイレ混雑時の距離を確保して並ぶ目安

④終演後のサイン会や見送りなど接触が予想される行動はすべて行わなかった。

プレゼントなども受け取らないように事前にアナウンスをしたが、当日お持ちになられたものに関しては、スタッフが預かり楽屋へと届けた。

⑤チケットはすべて電子チケットとして、オンラインショップのみにて販売。販売時や郵送受け取りなどの対面接触を避けた。また、チケットテイク時には、画面を触るなど共有が生まれる行動は避け、お客様にて画面を操作していただき、チケットテイクとした。

⑥公演プログラムは電子チケットから閲覧可能な電子媒体として接触の機会を減らした。



電子チケット及び電子媒体によるプログラム配布

⑦開場前の並びは 150cm 以上離れて待機していただくため、足元に目安を設置した。再利用を可能とするため床にテープなどを張らず、名札立やマーカーコーンを利用した。

⑧入場時は、37.5 度以上の体温を持つ方を検温にて特定し、入場辞退を要請した（辞退要請件数 0 件）。また、来場者に手指の消毒を呼びかけ、マスク着用のうえ県内在住者のみを入場可能とした。受付にはビニールシートを設置、スタッフはフェイスマスクを着用して対応した。受付近くに手指消毒コーナーを設置し、来場者へ消毒を要請した。



入場待機時の 150cm 間隔の目安を設置



入場時の検温

⑨演奏者の飛沫感染防止策として、自立式のアクリル板（180cm×90cm×0.7cm）を 7 枚用意した。

⑩演奏者と客席最前列は 400cm 程度の距離を保ち、演奏者間も可能な限り 100cm 以上離れての演奏を要請した。



アクリル板



演奏者と客席最前列及び演奏者間の距離

■演奏者サイドの感染防止対策（各公演）

①トロンボーンの水抜きに関して、小型のバケツを用意した。

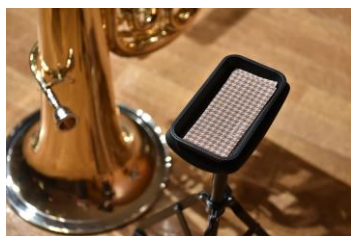
さらに水抜き部分が露出しないようにバケツ上面に切り込みのついた蓋を設置した。水抜き後はそばにある吸収性の高いタオル類でふき取りを行う。ダンスは客席最前列から 200cm 離れた距離を保つように演出した。(6/27)



②出演者を制限するため、自身でオーケストラパートを多重録音した動画を製作し、スクリーンに投影しながら演奏を行った。また飛沫感染防止のため、MCはすべて事前録音した音源を再生した。また、フルート、エアロフォン、鍵盤ハーモニカの水抜きは舞台袖で待機しているときに限り吸収性の高い道具を使って行った。(6/28)



③大型管楽器からの水抜きについて、チューバスタンドまたは譜面台の上にトレイを置き、その中に吸収性の高いシートを重ねた。クラリネットは吸収性の高いスワブを使用し、舞台袖で実施した。ソロ演奏、アンサンブルと出演者の出入りがあったが、各演奏者は自分の演奏位置を固定し、椅子・譜面台の共有を避けた。(7/4)



④リコーダー内部の清掃は舞台上では行わず、休憩時間に限り舞台袖で実施した。MCは演奏位置から少し離れた場所にて行ったため、その場所にアクリル板 1 枚を設置した。(7/5)



⑤声楽の二重奏・三重奏の時に、お互いの距離を保つため、床面に 200cm 間隔で印を付け、行動範囲を制限。客席への飛沫防止のため、アクリル板からなるべく離れて、客席前面からの距離も 400cm 以上離して演奏した。(7/12)



⑥弦楽器とピアノのため飛沫感染は少ないと判断し、MC位置のみにアクリル板を設置。客席最前列と演奏者の距離は 400cm を保って演奏した。(7/18)



■来場者サイドの感染防止対策

- ①電子チケット複数枚購入者も入場者ごとに電子上にてスマートフォンへ分配し入場の密を避けた。
- ②入場者は静岡県内在住者限定。
- ③マスクを必ず着用して入場。
- ④開場前の密を防ぐため、150cm 間隔で並んでいる目安にそって待機。
- ⑤差し入れ（花束・お菓子など）は禁止。
- ⑥会場内では会話を控えるなど、人との接触を減らす。
- ⑦ブラボーなど掛け声は行わず拍手のみ。
- ⑧演奏会終了後も楽屋やロビーでの演奏者との交流を行わず、速やかに退場。
- ⑨全員が電子チケット購入時に連絡先を登録しているため、後日の感染拡大防止の連絡が可能。

■主催者・演奏者サイドが各公演共通で行った感染防止対策

- ①舞台上、楽屋などの密を避けるため演奏者は4名以下に限定。
- ②出演者は本番2週間前から検温等体調管理を行い体調不良の場合は必ず事前報告。
- ③楽屋はすべて個室にて利用。ケータリングはペットボトルのみ用意。食事等は各自手配。
- ④舞台袖の密を避けるため、袖中の待機のための椅子は距離を保って設置。
- ⑤MCマイクの共有を避け、使用する人数分のマイクを用意。
- ⑥演奏者は最低100cmの距離を保って配置。演奏者間に飛沫感染の可能性がある場合は、アクリル板を設置または150cmの距離を確保。
- ⑦客席から200cmの所にアクリル板を設置、アクリル板から100～200cm離れた所で演奏。
- ⑧飛沫が少ないと実験結果がある楽器（※1）は、客席最前列から400cmの距離を保ち演奏することを条件に、前半アクリル板あり、後半アクリル板無しの実験を行った。
- ⑨アンコールは無しと事前告知し、拍手が続く場合はカーテンコールは1回程度に限定した。
- ⑩スタッフは、通常の公演時の必要数に加えて検温、電子チケット案内担当を増員した。

※1 ヤマハ株式会社 「管楽器・教育楽器飛沫可視化実験」

https://jp.yamaha.com/products/contents/winds/visualization_experiment/index.html

トヤマ楽器製造株式会社 「リコーダー演奏時の飛沫可視動画と感染症対策」

http://www.aulos.jp/topics/topics_20200527.html

公益財団法人東京都交響楽団 「演奏会再開への行程表と指針」

<https://www.tmsso.or.jp/j/news/9064/>

3. 演奏者・来場者の意見

■演奏者の意見（公演後の打ち合わせ及び後日提出された感想より集約・抜粋）

○演奏について

- ・3～4 か月ぶりの本番で、お客様と音楽を通じて空間・時間を共有する素晴らしさを改めて感じた。人に演奏を届けることの喜びをとっても感じた。
- ・久しぶりの演奏会だが、お客様の温かい雰囲気を支えられ心地よく演奏できた。
- ・少人数でも楽しんでいただけるように、事前撮影した多重録音の動画をスクリーンに流しながらの演奏を行ったが、まだまだ完成度や音の質など研究と挑戦が必要だと思った。今できる活動でどのような文化芸術を届けることができるか、勉強していきたい。
- ・飛沫感染防止のため事前録音の音源でMCを行ったが、いつもはMCでお客様の雰囲気や場の流れを作っていた事の大切さを感じた。
- ・いつもより少ないお客様のため、ホールの残響がいつもと違っていた。
- ・演奏後の交流を避けたため、メールなど何かしらお客様にご挨拶できる手段があると良い。

○アクリル板や演奏者同志の距離について

- ・アクリル板から距離が離れていれば、演奏にそれほど違和感はない。
- ・舞台照明の関係上、アクリル板に自分たちが鏡のように映り、お客様の表情が見えにくかった。マスクをしていることもあり、お客様の反応がわからず、この演奏で受け入れていただいているのか不安になった。いつもお客様の反応に演奏者は助けられていることが良く分かった。
- ・演奏者も距離を保っているため、いつものアンサンブルとは音の聞こえ方が違った。また、この音がどのようにお客様に届いているか事前にしっかり確認する必要がある。
- ・アクリル板に威圧感を感じたが、お客様の安心感を考えると、しっかりやったほうが良いかもしれない。
- ・実験的にアクリル板を設置しないで演奏を行ったが、お客様との距離が離れているとはいえ、一体感を感じることができ、無いほうが良いと思う。ただし、距離は保つ必要があると思う。
- ・アクリル板に近すぎると演奏しにくい、それよりも演奏者間の距離が離れるほうが演奏しにくい。
- ・アクリル板があると自分たちの音が返ってきていつもと違う感じの演奏になった。
- ・ホールの残響によって、演奏者同志の距離が遠いと難しくなる可能性がある。しっかりリハーサルを行って対応したい。
- ・アクリル板の存在は隔たり・壁を心理的に感じ、音が直接届いていない感じがした。
- ・アクリル板の高さが180cmだったが、これ以上高くなるとかなり威圧感がある。ただ、余り低くても意味がないので、180cm ぐらいが妥当なところだと思う。
- ・アクリル板があると、意識的に箱の中に入って演奏している感じがする。ただ、安心のためには必要だと思う。
- ・舞台上で動きがある演出などを考える場合、動く範囲やお互いの距離に気を取られ、本来の演出ができなくなってしまう恐れがある。
- ・演出の一つとして効果的に使用していくのも検討していきたい。

○今後の活動について

- ・自主公演は50%入場による収支面の問題があり、なかなか難しい。チケット単価を上げるわけにはいかなないので、収益が見込めない。
- ・どのように感染防止策を行えば安全になるかの方法や参考となる資料を共有してもらいたい。

■来場者の意見（電子アンケートによる回収 入場者 380 人、回答者 85 件、回収率 22%より集約・抜粋）

○電子チケットについて

- ・窓口に行かなくても良い、送料がいらない、忘れる・紛失がないなど便利。
- ・最初は戸惑ったが、慣れたらとても便利に感じた。
- ・初めてだったため、操作が難しかった。
- ・印刷した QR コードなど他の方法も導入してほしい。
- ・入場時に行うチケットテイクの機器について共有を避けるように考えて欲しい。（期間中改善済）
- ・演奏会の料金は CD1 枚より高くても問題ない。今回は安すぎる。
- ・入場時に電子チケットのチェックに時間が掛かるのが気になった。大規模なホールではさらに掛かると思う。
- ・チケット代金が安すぎる。2,000 円～3,000 円ぐらいでも良い。（5,000 円との意見もあり）

○電子プログラムについて

- ・電子プログラムはスマホのバックライトが明るいため、本番中に読むことを避けたい。
- ・電子プログラムも良いが、紙のプログラムもあると良い。椅子に置いておくとか工夫が必要。
- ・電子媒体を利用できない方への方法も今後考えて欲しい。
- ・プログラムは会場に掲示があるとわかりやすい。（期間中改善済）
- ・舞台上にプロジェクターなどで表示されていても良いかもしれない。
- ・プログラムだけでなく他の配布されるチラシもデジタルにしたほうが良いと思う。
- ・拡大や画面回転がやりにくかった。
- ・記念として紙のプログラムを残したい。

○アクリル板について

- ・音に与える影響は、よくわからなかった。違いがないなら、安心のためあったほうが良い。
- ・演奏者と客席の距離が保たれていれば必要ないと思う。
- ・ついている傷や指紋が照明の効果で目立ってしまう。
- ・違和感を感じるが、それでも生演奏を聴くための安心感だと思えば仕方がない。生演奏を聴く機会を増やしてほしい。
- ・残響音が聞こえにくい。音程によって変な振動を感じる時がある。低音が聞こえにくい気がする。
- ・最後列だと影響はあまり感じられなかった。
- ・様々なホールに設置されると良い。
- ・声楽のコンサートはやはり必要だと思う。
- ・MC も気を付けてもらえばもっと話してもらっても大丈夫だと思う。
- ・楽器編成にもよるが、距離が十分保たれれば対策は大丈夫だと思う。

○座席・その他について

- ・座席が離れていると安心感がある。また、隣に人がいないのでとても演奏に集中できる。
- ・マスクをしていれば、ある程度座席を増やしても良いと思う。
- ・座席数が少ないと赤字になってしまう。有料配信を検討しても良いと思う。
- ・感染拡大防止について色々な配慮があり安心して公演を楽しめた。
- ・人が少ないので拍手が小さかった。もっとたくさんの人に聞いてもらい、大きな拍手を届けたい。
- ・演奏者は密集でなければ、普通の位置関係を保っても良いと思う。
- ・短くても休憩があれば、のどを潤したりできるので良い。
- ・来場者の不要なおしゃべりが無くて静かで良かった。
- ・格子状に並んでいると、人が邪魔にならず前が見やすい。

4. まとめ

意見をもとに検討材料等をまとめる。

■主催者・演奏者

- ・三密の発生する環境を極力防止し、感染防止対策の徹底を具体的に示す必要がある。
- ・感染防止対策を万全にするための物品の用意など経費面での課題。
- ・安全面と収益面（客席 50%）の追求が課題。
- ・感染防止対策用に通常よりスタッフを多く配置することや電子チケットの導入などの対応が課題。

■来場者

- ・感染防止対策への意識が高く、理解も深い。
- ・検温、社会的距離などこちらの要請に対しても協力的。

■客席及び空調

- ・座席に関しては、通常よりお互いの間隔が広いと、集中してみられるなどの意見が多く聞かれた。
- ・空調が外気を取り入れた換気を行うシステムのため、直接外気を取り入れる扉は開放しなかった。外気を取り入れない空調システムの場合は方法を検討する必要がある。

■入退場時、休憩

- ・開場時の列は、多くて 5 名程度。来場者自身が時間差をつけ来場。
- ・休憩時のトイレ混雑の割合は、10 名以下／60 名入場時。ただし、列にならず時間差で利用するなど、来場者の工夫あり。
- ・途中退場・再入場は、5 名程度／60 名入場時。他フロアのトイレ利用あり。
- ・開演前、休憩時など客席は非常に静かで来場者の感染防止対策の意識が高い。
- ・手指消毒は 2 か所設けたが、それぞれの置き場所について導線を考慮し慎重に選定しないと消毒のための列ができる。
- ・客席数が多い場合の退場については密を避けるように順番などをアナウンスする工夫が必要。

■舞台

- ・管楽器の結露水の処理には飛沫を防止する工夫が必要。
- ・アクリル板設置の有無にもよるが、飛沫感染を防止するためには、演奏者間の距離を保つことが重要。

■電子チケット

- ・QR チケットなど他の方法も検討する必要がある。
- ・チケットテイク時に機器を使用する場合、機器が共有になるため注意。
- ・入場方法によっては、紙媒体より時間がかかる可能性があるため、事前トレーニングが必要。
- ・当日画面に出せない方が多く、専任の説明・操作案内スタッフの配置が必須。
- ・複数回ご来場いただいている方は、とてもスムーズにご入場されている。
- ・購入時に連絡先を登録するため、当日会場にて連絡先を記入していただかなくても後日の連絡が可能。

■電子プログラム

- ・紙媒体を望む声は多い。客席に置く、ロビーの机の上に置くなど工夫が必要。掲示も一つの方法。
- ・本番中はスマートフォンのバックライトが明るく閲覧していると周りの邪魔になってしまう。
- ・録音・録画されているのか、プログラムを見ているのか判断が難しい。
- ・拡大・回転などユーザビリティの事前確認が必要。

■アクリル板

- ・演奏者と客席、演奏者間の距離が保たれていれば、無くても良いと考える意見が多い。
- ・演奏者とアクリル板の距離にも音の影響が表れている。
- ・演奏者からは照明の具合により、鏡のようになり客席がほとんど見えない。
- ・演奏の音が演奏者に直接返ってくるため、残響やアンサンブル時のバランスなど確認が難しい。
- ・心理的な安心感が生まれる一方、心理的に隔たりを感じる方も多い。
- ・声楽には必要との声が圧倒的に多い。

■その他

- ・客席数の制限があるため、動画配信（有料・無料）の取り組みについての検討が必要。

■全体

- ・主催者・演奏者・来場者のすべての主体が一体となって感染防止対策について考え取り組むことが必要。
- ・1者でも感染防止対策についての意識及び行動が欠けた場合、対策は成り立たなくなる。
- ・科学・医学面で公表されている実験・実証結果などの数値を踏まえ、また各種団体のガイドラインを参考にしながら、具体的な感染防止対策を形に示すことが必要。そして、3者それぞれの取り組み内容についてわかりやすく説明することが、来場者の心理的な安心につながるものとする。
- ・今後も主催者・演奏者・来場者がともに考え行動していくことが最も重要と考え、新しい様式の中での文化芸術活動の手法について模索していく。

(公財) 浜松市文化振興財団 文化事業課

〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町 111-1

TEL. 053-451-1151 FAX. 053-451-1123

mail newnormal@hcf.or.jp

web www.hcf.or.jp

文化の力で、今できることを。#InNewNormal

「Concert In New Normal ～新しい生活様式のための～」募集要項

緊急事態宣言が解除されましたが、コロナ感染防止のため文化芸術活動の自粛はまだ続いています。当財団では、この間、浜松市内の演奏者への活動の場の提供を目的に「文化の力で、今できることを。」をキャッチコピーとして事業を進めてきました。まずは、自宅で楽しむことのできる動画コンテンツとして#MusicAtHomeをキーワードに、浜松市内在住及び浜松市出身の演奏者に制作を依頼し、中高生向けの楽器練習をはじめ誰でも楽しめる演奏動画を Youtube にて公開しています。

次のステップとして、新しい生活様式が求められている状況下で感染防止対策を行いながらのミニコンサートを公募・開催し、今後の文化芸術活動の手法を演奏者・来場者の皆様とともに考える機会を創出します。その中では、コンサート運営面において、電子チケットやデジタル媒体によるプログラム配布にも取り組みます。

■コンサート名：「Concert In New Normal ～新しい生活様式のための～」

■日時：令和2年6月27日（土）、6月28日（日）、7月4日（土）

※公演回数を追加する場合があります。

■会場：アクトシティ浜松 研修交流センター 音楽工房ホール

■定員：40人（チケット：一般販売 自由席 500円（税込み））※購入対象者は静岡県在住者のみ

■事業目的

浜松市在住及び浜松市出身（静岡県内在住）の演奏者の活動の場の提供とともに、新しい生活様式での文化芸術活動の手法を演奏者・来場者とともに考えます。演奏会終了後は演奏者・来場者の意見や感想などをwebで公開し、多くの方が今後の演奏会のあり方を考える機会になるよう発信します。

■事業内容

①演奏者が演奏会の構成を企画し応募

②演奏者謝礼・会場費・チケット販売経費・広告費は当財団が負担

演奏会1回につき謝礼は一人40,000円

※演奏者側の密を避けるため、演奏者は4名以下とする。（謝礼額の上限は160,000円）

③入場及びそれに関係する進行は当財団が担当

④舞台上及びそれに関係する進行は演奏者が担当

⑤チケット収入は当財団収入

⑥コンサートはマチネ、1時間程度（14:00～15:00を想定）、休憩なし、サイン会等もなし

リハーサルは当日の午前中（60分～90分）を予定



公益財団法人

浜松市文化振興財団

Hamamatsu Cultural Foundation

■募集要項

①募集期間

令和2年5月27日（水）～6月3日（水）必着

②審査及び通知

審査は令和2年6月4日（木）に採択決定その後通知

企画内容の実現性及び募集要項の意図に沿ったものかを審査

採用は実施日1日1公演として3公演分の団体または個人を採用

③応募方法

1時間程度のコンサート内容を企画構成し所定の用紙に記入後 mail にて応募

所定用紙については当財団 HP を参照（www.hcf.or.jp）

④応募対象者

演奏者の対象は浜松市在住または浜松市出身の静岡県内在住者

ジャンルは問わないが、直近1年以内にのべ200席以上の有料公演を主催または参加するなど、プロとして生計を立てている文化芸術の表現者である団体または個人

⑤申請後の演奏者変更は当財団と協議の上決定

⑥公演回数を追加する場合、落選者へ通知し出演を依頼する場合がある

⑦1回の申請書に複数編成（いくつかのパターン）を記入することも可能

⑧審査結果についての問い合わせは受け付けない

⑨舞台上及び客席で動きのあるパフォーマンスを予定している場合は必ず事前に相談する事

■実施詳細について（予定）

チケット販売	接触を避けるため、対面販売の無いweb販売のみ。 電子チケット にて対応。 購入者は静岡県内在住者に限る
入 場	距離を開けた並びになるよう誘導。数か所に消毒液を配置。 配布プログラムはデジタル媒体 で事前配布。チケットテイクは無し。入場確認は簡易的なスマホ画面確認。
換 気	一部の扉を開けてコンサートを実施
本 番	転換が必要な特別な舞台設営は行わない。休憩時間におけるトイレの混雑を避けるため、休憩なしの1時間以内の公演。 各演奏者前にアクリル板の設置を試行。 （1枚1.8m×0.9mを複数枚） 演奏者側の密を避けるため、間隔をあけて配置し人数は4名以下。
退 場	時差退場を促すため、終演後は演奏者からアナウンスをしてもらい、2列ずつ退場などを実施。終演後のサイン・トークは無し。
全 般	注意事項、進行、当日の案内、アンケートなどは、 事前にデジタル媒体にて配布。

問い合わせ先

（公財）浜松市文化振興財団 文化事業課 文化創造グループ 後藤、大石、山本

TEL053-451-1151 FAX053-451-1123

mail : newnormal@hcf.or.jp <http://www.hcf.or.jp>

文化の力で、今できることを。#InNewNormal

「Concert In New Normal ～新しい生活様式のための～」 応募用紙

		受付 No.	
申請日	令和2年 月 日		
団体名（またはグループ名）			
代表者氏名			
連絡者氏名・連絡先 （携帯・メール）	電話・携帯 メールアドレス @		
演奏者氏名 （担当楽器名なども記載）			
演奏会の企画内容			
感染防止対策			
今後の文化芸術活動の 手法について			

- 記載されている個人情報は、本事業に関する事項以外には使用しません。
- 演奏者は最大で4名までです。なお、演奏者は浜松市在住または浜松市出身で静岡県内在住の演奏者。
- 1団体につき1回のみの申請になります。
- 企画内容には、演奏曲や曲順、楽器編成、配布プログラムの内容などをお書きください。
- 感染防止対策については、演奏上考えられる防止策を記入してください。
- 今後の文化芸術活動の手法については、新しい生活様式の中でどのような文化芸術活動ができるか、どのような開催形態があるかなど、自由にお書きください。